

科目名	① 職務の理解	時間数	6時間
指導の視点			
<p>1 研修課程全体の構成と各研修科目(10科目)相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。</p> <p>2 視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、できる限り具体的に理解させる。</p>			
内容		時間数	
1. 多様なサービスの理解 (1)介護保険サービス(居宅、施設) (2)介護保険外サービス		3時間	
2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解 (1)居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 (2)居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ⇒視聴覚教材の活用、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等 (3)ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携		3時間	

科目名	② 介護における尊厳の保持・自立支援	時間数	9時間
指導の視点			
<p>1 具体的な事例を複数示し、利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアを行うことの違い、自立という概念に対する気づきを促す。</p> <p>2 具体的な事例を複数示し、利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。</p> <p>3 利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。</p> <p>4 虐待を受けている高齢者への対応方法についての指導を行い、高齢者虐待に対する理解を促す。</p>			
内容		時間数	
1. 人権と尊厳を支える介護 (1)人権と尊厳の保持(2)ICF(3)QOL(4)ノーマライゼーション (5)虐待防止・身体拘束禁止(6)個人の権利を守る制度の概要		6時間	
2. 自立に向けた介護 (1)自立支援(2)介護予防		3時間	

科目名	③ 介護の基本	時間数	6時間
指導の視点			
<p>1 可能な限り具体例を示す等の工夫を行い、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。</p> <p>2 介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。</p>			
内容		時間数	
1 介護職の役割、専門性と多職種との連携 (1)介護環境の特徴の理解(2)介護の専門性(3)介護に関わる職種		3時間	
2 介護職の職業倫理			
3 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1)介護における安全の確保(2)事故予防、安全対策(3)感染対策		4時間	
4 介護職の安全 ◇介護職の心身の健康管理			

科目名	④ 介護・福祉サービスの理解と医療との連携	時間数	18時間
指導の視点			
<p>1 介護保険制度・障害者総合支援制度を担う一員として介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。</p> <p>2 利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害者総合支援制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。</p>			
内容		時間数	
1 介護保険制度 (1)介護保険制度創設の背景及び目的、動向(2)仕組みの基礎的理解 (3)制度を支える財源、組織・団体の機能と役割		6時間	
2 医療との連携とリハビリテーション		6時間	

3 障害者総合支援制度およびその他制度 (1)障害者福祉制度の理念 (2)障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ①介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで (3)個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法 ②成年後見制度 ③日常生活自立支援事業	6時間
--	-----

科目名 ⑤ 介護におけるコミュニケーション技術	時間数	9時間
指導の視点		
1 利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 2 チームケアにおける専門職種でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。		
内容		時間数
1 介護におけるコミュニケーション (1)介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 (2)コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション (3)利用者・家族とのコミュニケーションの実際 (4)利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際		3時間
2 介護におけるチームのコミュニケーション (1)記録における情報の共有化(2)報告 (3)コミュニケーションを促す環境		6時間

科目名 ⑥ 老化の理解	時間数	12時間
指導の視点		
高齢者に多い心身の変化、疾病等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。		
内容		時間数
1 老化に伴うこころとからだの変化と日常 (1)老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 (2)老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響		6時間
2 高齢者と健康 (1)高齢者の疾病と生活上の留意点 (2)高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点		6時間

科目名 ⑦ 認知症の理解	時間数	12時間
指導の視点		
1 認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 2 複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。		
内容		時間数
1 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念		6時間
2 医学的側面から見た認知症の原因疾患と健康管理 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理		
3 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 (1)認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 (2)認知症の利用者への対応		6時間
4 家族への支援		

科目名 ⑧ 障害の理解	時間数	12時間
指導の視点		
1 介護において障害の信念とICFを理解しておくことの必要性の理解を促す。 2 高齢者の介護との違いを念頭に置きながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。		
内容		時間数

1 障害の基礎的理解 (1)障害の概念とICF (2)障害者福祉の基本的理念	3時間
2 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎的知識 (1)身体障害 (2)知的障害 (3)精神障害(高次脳機能障害・発達障害を含む) (4)その他の心身の機能障害	6時間
3 家族の心理、かかり支援の理解 家族への支援	3時間

科目名	⑨ ころとからだのしくみと生活支援技術	時間数	180時間
指導の指針			
1 介護実践に必要なころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材や模型を使って理解させ、具体的な身体の各部の名称や機能等が列挙できるように促す。			
2 サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供しかつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。			
3 例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。			
4 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。			
内容			
1 介護の基本的な考え方		3時間	
2 介護に関するころとからだのしくみの基礎的理解		3時間	
3 介護に関するからだのしくみと基礎的理解		12時間	
4 生活と家事 ◇家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援		6時間	
5 快適な居住環境と介護 ◇快適な居住環境に関する基礎知識 ◇高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法		6時間	
6 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ◇整容に関する基礎知識、整容の支援技術		12時間	
7 移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ◇移動・移乗に関する基礎知識 ◇さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法 ◇利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 ◇移動と社会参加の留意点と支援		12時間	
8 食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ◇食事に関する基礎知識 ◇食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態のからだのしくみ ◇楽しい食事を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 ◇食事と社会参加の留意点と支援		12時間	
9 入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ◇入浴、清潔保持に関連した基礎知識 ◇さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法 ◇楽しい入浴を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法		12時間	
10 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ◇排泄に関する基礎知識 ◇さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ◇爽快な排泄を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法		12時間	
11 睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護 ◇睡眠に関する基礎知識 ◇さまざまな睡眠環境と用具の活用方法 ◇快い睡眠を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法		6時間	

12 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護 ◇終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ ◇生から死への過程 ◇「死」に向き合うところの理解 ◇苦痛の少ない死への支援 緊急時対応 薬と医療機器の基礎的理解	3時間 3時間 6時間
生活支援技術(整容、移動・移乗、食事、入浴、清潔保持、排泄演習)の確認テストと復習	18時間
実習 ○施設サービス実習 ○訪問・通所サービス実習	36時間
13 介護過程の基礎的理解	6時間
14 総合生活支援技術演習 事例による展開	12時間

科目名	⑩ 振り返り	時間数	5時間
指導の視点			
1 在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習(身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む)を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。			
2 研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたくて、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。			
3 修了後も継続的に学習することを前提に。介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。			
4 最新知識の付与と、次のステップ(職場環境への早期適応等)へ向けての課題を受講者が確認できるよう促す。			
5 介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような			
内容		時間数	
1 振り返り			
2 就業への備えと研修修了後における継続的な研修		5時間	